

# 職場の教養

4

2026  
APRIL

職場の教養

4月号

2026(令和8)年4月1日発行  
(毎月1回)1日発行  
第4巻4号 通巻004号

編集人 三浦貴史  
発行人 和田毅

一般社団法人 倫理研究所  
<https://www.rinri-jp.co.jp/>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込みやお問い合わせは、倫理法人会事務局へどうぞ。



令和8年度

## 倫理経営講演会

テーマ 企業は人なり — 経営者が変われば会社は変わる —

「企業は一将の影」と言われます。およそ事業は、経営者自身の思いや考え、その取り組み全ての結晶、といっても過言ではないでしょう。それは、社員、顧客、取引先等々との関係をはじめ、事業上のあらゆる面に影響を与えます。このように経営を左右するリーダーのあり方の源泉とは何でしょうか。私たち倫理法人会では、それを経営者の人間性にあると捉えます。本講演会では、経営者をはじめ、共に事業を推し進める人たちの「人間力」に着目し、「企業は人なり — 経営者が変われば会社は変わる —」のテーマを掲げ、倫理経営の観点から事業繁栄のヒントを提案いたします。

倫理経営講演会は、1月~5月、経営者を対象に全国で開催中です。

お問い合わせは各倫理法人会事務局へ(本誌巻末掲載)

倫理経営講演会関連図書

### 『万人幸福の菜』により親しむために

純粋倫理のエッセンスが凝縮された『菜』には、汲めども尽きない味わいがあります。



### 新刊 十七カ条講話

丸山敏秋◎著

定価 1,500円(税込)  
倫理研究所 B6判 346頁

目次より

- ◎ 気づきを大切に今を生きる
- ◎ 「生きがい」としての苦難
- ◎ 「鏡」に学び、天を師とする
- ◎ 金銭は欲望に反比例して集まる、他 \*巻末に付論三編

所属

氏名

おかげさまで50周年



一般社団法人 倫理研究所

今日の心がけ◆**相手を知ろうとする姿勢を持ちましょう**

「二月は行ってしまおう、二月は逃げてしまおう、三月は去ってしまおう」。年明けから年度末までの三カ月は、行事や締め切りに追われ、あつという間に過ぎていきます。そしてその慌ただしい日々の中に、新しい年度を迎える四月があります。四月は、部署異動や配属替え、新入社員の入社など、新たな出会いが増える季節です。環境が変わることで、期待と同時に不安を抱く人も少なくありません。受け入れる側も、これまでの仕事のやり方や人間関係に変化が生じ、戸惑いを感ずることがあるでしょう。

しかし、新しい仲間が加わることで、職場にはこれまでになかった経験や視点もたらされます。異なる経歴や考え方に触れることは、仕事の進め方を見直すきっかけとなり、課題解決の幅を広げます。

新しい仲間と打ち解けるための第一歩となるのが、普段の何気ない声かけです。形式的に済ませてしまえば、信頼関係を築く機会を逃してしまいます。相手を知ろうとする姿勢が、職場に温かな空気を生み、組織の力を高めていくのです。

季節を表わす二十四節気の一つに、「清明」があります。

これは、すべてのものが清らかで明るく、生き生きとしている様子を意味しています。本格的な春の到来を告げる節目であり、今年も四月五日となっています。

沖縄県では、この頃に「清明祭(シーミー)」というお墓参りの行事があり、高速道路の電光掲示板で渋滞が注意喚起されるほどの一大イベントになっています。当日は、親族ができる限り予定を合わせてお墓に集まり、重箱に備えた料理をいただきますながら、にぎやかに過ごします。

そのようにして祖父母、両親、子供といった様々な世代がにぎやかに過ごすことで、祖先への感謝を伝える意味合いがあります。

本州においては、この頃ソメイヨシノが見頃を迎えます。家族や友人、会社の同僚たちとお花見をする人も多いのではないのでしょうか。

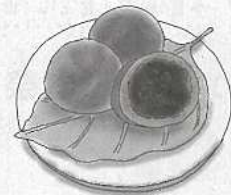
暖かく、麗らかな春の日に、親しい人々と過ごす時間を大切にしつつ、業務に励む気力を培っていききたいものです。

今日の心がけ◆**親しい人と語りましょう**

「二月は行ってしまおう、二月は逃げてしまおう、三月は去ってしまおう」。年明けから年度末までの三カ月は、行事や締め切りに追われ、あつという間に過ぎていきます。そしてその慌ただしい日々の中に、新しい年度を迎える四月があります。四月は、部署異動や配属替え、新入社員の入社など、新たな出会いが増える季節です。環境が変わることで、期待と同時に不安を抱く人も少なくありません。受け入れる側も、これまでの仕事のやり方や人間関係に変化が生じ、戸惑いを感ずることがあるでしょう。

しかし、新しい仲間が加わることで、職場にはこれまでになかった経験や視点もたらされます。異なる経歴や考え方に触れることは、仕事の進め方を見直すきっかけとなり、課題解決の幅を広げます。

新しい仲間と打ち解けるための第一歩となるのが、普段の何気ない声かけです。形式的に済ませてしまえば、信頼関係を築く機会を逃してしまいます。相手を知ろうとする姿勢が、職場に温かな空気を生み、組織の力を高めていくのです。



今日の心がけ◆視野を広げて判断しましょう

古来、日本の先人たちは、芸道や茶道、武道といった世界に身を置き、自己研鑽を積む過程で「守・破・離」という段階を重んじてきました。守とは、師についてその流儀や型を忠実に守り、励むこと。破は、基本を自己の工夫や努力によって洗練し、さらに高めていくこと。離は、自己の研究を大成し、独自の道を確立することを意味します。

ベテラン社員のS氏が入社した頃、初めて配属された部署で、業務のあり様に古臭さを覚え、「もともと効率的にできるのに」と否定的に見ていたといえます。そんな折、尊敬する先輩から「若い時分に『守・破・離』の段階を学び、異動する度に一年間はその部署のやり方に徹したものだ」と聞き、感銘を受けました。それ以来、S氏は部署を異動する際、まずは既存のやり方を踏襲するようになりました。もちろん、古いやり方にとらわれ過ぎることは問題です。

しかし、先人が紡いできた手法を否定するばかりでは、物事を狭く捉えてしまいます。新旧の調和を見極め、最良の一手を探り続けていきたいものです。

今日の心がけ◆忙しい時にこそ再確認しましょう

新年度を迎え、役割の変更や業務の引き継ぎが本格化する時期です。多くの人が仕事に追われ、つい確認を後回しにしてしまいがちな今こそ、お互いの認識に潜む「小さなズレ」への注意が欠かせません。

例えば「早めにお願ひ」と言われた時、何時を思い浮かべますか。自分は「夕方まで」と判断していても、相手は「午前中」を想定しているかもしれません。こうしたように、同じ言葉でも状況や経験によって受け取り方は変わります。その結果、指示の曖昧さが双方に無駄な負担や気まずさを生む原因になるのです。だからこそ、「三時まででよろしいですか」と具体的な数字をたずねる一言が重要になります。たった数秒のすり合わせこそが、互いの時間を守り、仕事をスムーズに進める予防策となるのです。

そして「きつとわかっているはず」という思い込みは、忙しい場面ほどミスを生みます。小さなひと手間を惜しまない姿勢こそが、不要な不安や摩擦を減らし、互いが納得感をもって日々の業務に向き合える力となるのです。

日本再発見!—春夏の風習・食文化(世界編)—

## イワン・クパーラ (ウクライナなど)

ウクライナやロシア、ベラルーシなどで暮らす東スラブ地域で受け継がれている祝祭。毎年7月6日の夜、民族衣装に身を包んだ人々が大きな火を焚いてその周りに集い、民謡を歌い、ダンスをする。やがて、人々はペアで手を繋ぎ、次々と

焚き火の上を飛び越え始める。これはイワン・クパーラ独特の風習で、魂を浄化するための儀式だという。また、女性は草花で編んだ花輪を川に浮かべ、遠くまで流れれば幸せになれるともいわれている。



## 今日の心がけ◆仲間をフォローしましょう

わたたくし 私たちが豊かな社会生活を営む上で大切な心の働きに「思いやり」があります。「思いやり」は「思い遣り」が語源とされます。「遣る」とは「気持ちを持って」という意味で、そこから「相手に心を届ける」ことを指すようになり、相手の立場に立って心を働かせることを意味する言葉へと定着したといわれています。Aさんが監督を務める少年野球チームは、ある試合で途中までは優勢に進めていたものの、守備のミスから流れが変わり、惜しくも敗れてしまいました。試合後、Aさんは選手たちを労いながら、「ミスをしたのがもし自分だったら」と置き換えて考え、行動するように伝えました。それは、ミスをした選手を責める空気を生まないようにするためです。

わたたくし 私たちが集団生活を送る中で、誰しもミスや失敗をするものです。その時、全体で支え合い、団結して事に当たるのか、それとも相手を責めながら取り組むのかによって、成果は大きく変わってきます。

ミスをした仲間には、前向きになれる言葉をかけていきたいものです。

## 今日の心がけ◆清々しい朝の空気を感じましょう

いそが 忙しい現代人にとって、清々しい朝の空気を吸うことは、身近で気軽に行なうことができる効果的なリフレッシュ方法の一つです。

はんぼうき 繁忙期で残業が続き、気持ちの余裕を失っていたAさん。ある朝、いつもより一時間も早く目が覚めてしまい、再び寝る気にもなれず、気分転換になればと思いつき、近所を散歩してみることにしました。

そうちよう 早朝で人通りも少なく、朝の澄んだ空気が漂っています。胸いっぱい周囲の空気を吸い込んだ瞬間、肩の力が抜けたように感じました。

Aさんは特別な事前の準備や運動をしなくても、深呼吸をして朝の空気を感ただけで心身がすっきりと整い、リフレッシュすることができたのです。

いそが 忙しさのあまり、作業の効率ばかりに拘っていたことを反省すると共に、仕事の質を上げるためには、リフレッシュも必要だと改めて実感したのでした。

あさ 朝の時間を大切にするには、自分を大切にする小さな習慣といえます。そういった習慣の積み重ねが、質の高い一日を作っていくと心得たいものです。

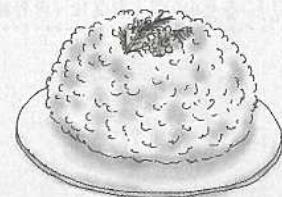
## 今日の心がけ◆清々しい朝の空気を感じましょう

## 日本再発見! 春夏の風習・食文化 (世界編)

トルタミモザ  
(イタリア)

ドーム型のケーキに、さいの目に細かく切ったスポンジ生地を飾り付けてミモザを表現した可愛いケーキ。イタリアでは、3月8日の国際女性デー(フェスタ・デラ・ドンナ)に、日頃の感謝を込めて男性から女性にミモザの花を贈る習

慣がある。ちょうどこの時期はミモザが満開で、街角は鮮やかな黄色に彩られる。そんな日に楽しむケーキがトルタミモザだ。その姿は、あふれる太陽のようなミモザの花と女性の笑顔を思わせる。



友人の結婚披露宴に出席したFさんは、友人の上司であるK氏の挨拶が強く心に残り、その時を境に、仕事への意識や人生に対する考え方が変わりました。挨拶の中でK氏は、友人に向けて「身近なことでよいから、生涯努力し続けなければならぬような理想を持ってほしい」と述べ、そのような理想を抱くことの大切さについて、次のように語りました。

「生涯にわたる理想を持つことで、私たちはその実現のために日々努力するようになる。そこに働きや生活に張りが生まれ、生きがいのある一生が送れるのだ。逆に、理想のない人生は活力が湧かず、気の抜けたものになってしまうだろう」その挨拶を聞いてから一週間ほどが過ぎた頃、Fさんの胸には「美しく生きることを生涯の理想としよう」という思いが自然と芽生えてきたといいます。

現在、Fさんは「失敗の責任は自分が負う」「苦難にある仲間には積極的に手を差し伸べる」「自分のことより他人のことを先にする」という三つの目標を掲げ、日々、美しく生きることを目指して働いています。

#### 今日の心がけ◆学ぶ姿勢を絶やさず自分を磨きましょう

「忠実忠実しい」とは、もともと誠実でまじめであるという意味で、そこから転じて、面倒がらず勤勉に働くことを指すようになったともいわれています。

一般的には、身軽によく働き、相手の立場に寄り添いながら親身に努める、あるいは苦勞をいとわず真面目に働く様子を表わす言葉です。

似た言葉の「甲斐甲斐しい」も、こまやかでまじめに働く姿を指しますが、加えて「見返りを求めずに物事に打ち込む姿」や「けなげな様子」も含まれます。社会において仕事に就く以上、給料という対価を得ることは当然ですが、仕事に臨む心のあり方という観点に立てば、「忠実忠実しく働く」姿勢はとても大切な要素ではないでしょうか。

また、心の動きと密接に関係している体調を整えるという視点から見ても、「忠実忠実しく」そして軽やかな心で仕事に向き合うことは、健康づくりにもつながるはずです。

どのような業務に対しても、まずは真摯な姿勢で取り組んでいきたいものです。

#### 今日の心がけ◆軽やかな心で励みましよう

### イースターエッグハント (オーストラリア)

南半球に位置するオーストラリアでは、秋の爽やかな空気の中でイースターを迎える。復活祭を祝う大型連休でもあり、学校や家族の集まりでは、子供たちがカラフルな卵型のお菓子や装飾を探す行事が恒例だ。卵はキリスト教における生命

の始まりの象徴であり、イースターにおける重要なモチーフとなっている。子供たちに卵やお菓子を運んでくるとされるのは、イースターバニーならぬイースタービルビー。ウサギに似ているオーストラリアの固有種だ。

